

---

# 魔女が勇者を倒すまで！

たしま

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔女が勇者を倒すまで！

### 【Nコード】

N48810

### 【作者名】

たしま

### 【あらすじ】

舞台は夢と希望が溢れる(?)魔法の世界。国一つ壊滅まで追いつめた我が儘な魔女と苦労人がやれやれとか言いながら一緒にダラダラいる話※只今勇者によって記憶を盗られ中

## 魔女と本とロールキャベツ

白い白い部屋

誰も居なくて自分が誰かも解らず一人震えていた時、アイツがやって来た。

何処にも無かったはずの扉が現れてスーと開いたと思ったらこっちが拍子抜けするぐらいの能天気な声を出して。

「―あれ？お前どうやってこん中入った？」

「暇だー」

自分の周りに積み上がった本の山。一体この数日でどれだけ読んだのだろう。返事の無い訴えが虚しく感じ、最終的に怒りへと変わった。倒れ込んでいた身体を起こしいつもアイツが現れる壁に向かって片っ端から本を投げた

「暇だ暇だ暇だー！！いい年した女のコの元に本しか無いってどうなのよー！？私が一体何をしたー！さっさと此処から出しやがれー！！」

叫び終わり最後の一冊が手を離れた時、まるでタイミングを合わせたかのように扉が開いた。勿論飛び出した本は止まることなく、

「あっ      「あ”？」

ドカッ      中々いい音を立てて男の顔面にヒットした

「だーかーらー、悪気は無かったんだって。悪かったって言ってるでしょ。…しつこいわねー」

「態度に誠意が感じられねえ！！」

おでこを赤くさせた男が寝そべりながら本をめくっている少女に掴みかかる様な勢いで言う。心なしか若干涙目になっている男に少女がバツの悪そうにしていた。

「…だって暇だったのよ。一日中こんな部屋に鎖でつながれてみなさい！本の一つや二つ投げたくもなるわ！！私は犬かつーの！？」

「…仕方ないだろうが。お前は罪人なんだから」

男がボソツと返した言葉に少女がぐると振り返り男の胸ぐらを掴みかかる

「そう！それよそれ。事の発端は全部それなのよ！それが解決すれば私は苛立たなくていいしあんただっておでこぶつけなくてすんだの！」

「…いや、俺のおでこはお前が全面的にわるいだろ」

「（無視）大体私がその“悪い魔女”って本当なの？！どう見てもただの美少女じゃない！ありえないわ！！」

「うんうん。それは俺も思ってた。けどあれだな、お前のその自己意識過剰っぷりは魔女っぽいよな」

「ふん。何よ、私が美しくないとしても？」

「…ハイハイ。大変お美しいでゴザイマスよ。ーほら、さっさと食べ」

むくれた少女の前にお盆を運ぶ。先ほどの本攻撃で奇跡的にも無事だったものだ。…あーあ、やっぱり冷めたか。盆に乗った料理は既に湯気を立てることはない。ヒリヒリと痛むおでこを気にしながらそんな事を考えるが此処から食堂まではありえない程距離があるので温め直すという選択肢はない。なによりめんどくさい

少女の方は冷めた料理がそれほど気にならないのか特に文句を言うことなく大人しく食べていた

「ねえー この丸いの何？」

「あ？ー ああ、ロールキャベツ」

「ろーるきやべつ？」

聞き慣れない言葉に思わず舌足らずな言葉で男の言葉を繰り返す。  
男は特に説明するでもなくただ「うまいから食ってみろ」と言うだけだった。ナイフとフォークを使いゆっくりと口に運ぶ

「……美味しい」

「よかったな」

思わず口に出していた言葉  
それに返ってきたのはそんな台詞とポンッと頭に乗った手の平。

ただそれだけなのにあんなに苛立っていた私の心は波が引いていくように静かになった。  
波だからまたきつと満ちてくるけどこの手の平があれば多分平気な気もした

沢山沢山本を読んでも全然思い出せない私の記憶

私の見張り兼お世話係りのこの男が言うには私の記憶は“勇者様”  
によって盗られてしまったらしい

分からない事が沢山ある

知りたい事も沢山ある

確かなモノはひとつもなかったはずなのに一個だけ確かになった

「…ごめん。」

私に背を向けて散らばった本を片付けているアイツに聞こえないくらい小さな声で言った。

聞こえなかったらそれでいいや

そう思っていたのに、

「ん。許す」

聞いていないようで聞いているそんなコイツが私は嫌いじゃない

返ってきた返事がやけに嬉しく耳に響いた

白い白い部屋は一人でいると物凄く暇でしかないけど、二人でいる  
とと思っていた程退屈ではない。

今の私の一つだけ確かな事。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4881o/>

---

魔女が勇者を倒すまで！

2010年10月30日23時27分発行